

# 理事長所信

常滑青年会議所 2024年度  
第63代 理事長 渡辺 敏史

## 【はじめに】

2022 年度世界会議香港大会の総会にて、JCI がリーダーシップの開発と成長の機会をいかに重視しているかを正確に示すために JCI ミッションと JCI ビジョンが新たに改定されました。

### JCI Mission

To provide leadership development opportunities that empower young people to create positive change.

(和訳)青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

### JCI Vision

To be the foremost global networking of young active leaders.

(和訳)青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを先導する組織となる。

と改定され、青年会議所はよりリーダーシップを育成し強化する組織であると明確に打ち出されました。

ここで言われる「リーダーシップ」とは、目的思考と行動力を兼ね備え周囲の人々へ影響力を発揮することです。これらの能力開発と成長の機会を得ることによって、青年が社会により良い変化をもたらす。と、言うものです。

昨今、多様性、あるいはダイバーシティという言葉が頻繁に聞かれるようになってきました。性別、年齢、人種や国籍、障がいの有無、性的指向、宗教・信条などの表面的な要素に加え、文化、価値観や考え方などの深層的な要素も含む事。と、されています。

多様性とは個性の集まりだと考えます。一人ひとりが個性を発揮し、それを他者が受け入れる。個の力がより重要度を増す時代において、多様な個性をまとめるリーダーが必要であると考えます。

人は、同じ経験をしたとしても、物事にどれだけ真剣に取り組むかどうかで、何かを達成した時の感動の量がまるで違います。受動的に与えられたことをやっている人と、自分に来ることを考え、真剣に向き合い、精一杯やった人では、同じ物事を経験したとしても、全く違った経験となります。

そんなことぐらいやったことあるから大丈夫。と、思うのではなく、常に今の自分が出来る全力を出し続けることで、必ず何らかの発見と学びがあります。喜びも悲しみもこれまでより大きく返ってきます。

そこから目を逸らさずに、真剣に向き合うからこそ、今の自分を越えた自分となれる。自分の受け取れる感動の量を増やしていくことが出来ます。

人より大きな喜びと、大きな悲しみを知ることで、何事も挑戦する強さと、何でも受け入れられる優しさをもった人となることが、この多様性の時代に置いて、最も必要とされる、まちのリーダーの資質だと考えます。

己の未知なる可能性に向かって一瞬一瞬を全力で生き、挑戦することにフォーカスする。挑む姿を見せることで共感を生み、集まるメンバーで多くの経験と多くの感動を共有し、進んでいきます。今の自分にできる全力で常に前向きに経験することで、まちのリーダーとなる為の経験、感動をしていきましょう。

#### 【理念を共感するコミュニティ化】

組織の問題として、そもそも同じゴールを描いていない、コミットしていない、モチベーションが違う、パフォーマンスにムラがあるなどのメンバー同士が集まっていることがあげられます。ニュータウン構想などは、自然と集まってまちができたのではない、無理やり場所があるから集め、作られたものです。無理矢理かたちにしたものは崩壊し、ゴーストタウンとなります。

「コミュニティは作るものではなくできるもの」

コミュニティ形成に必要なものは本来的に結束しているものであり、愛着や好奇心が向かう先であります。理念、コンセプトなどをきちんと提示できているか、一つのテーマを掲げることでそこに価値を感じる人が集まる場があります。

コミュニティとはそれぞれが切磋琢磨し成長する中で幸福の相場が増えていく場所です。その仲間とより幸福に豊かになっていきましょう。

自分の色を出すことでそこに共感、共鳴して人が集まり、個性が調和する。正に青年会議所がビジョンを語り活動することの大切さをここに感じるすることができます。

コミュニティメンバー同士の概念として、そもそも人と人が100%分かり合えることなんてない。今の自分の見える世界に限界があるから、正しく理解できないし、お互い誤解し合っているのが当たり前です。まずは、この前提でいることが大切です。

何も理解していないメンバー同士が、お互いにオープンマインドで接し、相手を理解する為に分かる目を養い、相手の理解を深めたいと意識して接する中で人間関係を深める事に繋がります。大切なものほど時間がかかるし、時間はかけるものだと思うことが大切です。

こうして集まったコミュニティは常に開かれた場所であり、それぞれメンバーの気の置けない居場所であること。そしてメンバーが新しいものを取り入れられる「フトコロ」の深さ、風通しの良さが大切です。今という瞬間を共にする共同体として、共感を生み、メンバーを巻き込む交流を行っていきましょう。

#### 【コミュニティの理念を共有し拡大へ】

会員拡大は日本全国の各地青年会議所でも大きな課題として挙げられています。

1980年代後半に6万数千余名の会員を有したのをピークに会員数は減少し、現在では約26000名在籍しています。

J Cとは何かを説明できるメンバーが減少している中でも、本当にこの常滑青年会議所が素晴らしいと思い、ビジョンを語り、魅力を伝えられるメンバーが共感を生むことで会員拡大へとつながります。相手の想いを受け取り、青年会議所がその全てを満たせる会であると伝え、その上で心から思う「コミュニティの理念」を共有し最大限拡大していきましょう。

#### 【まちに影響を与える人財育成】

常滑市のまちづくりは、市民や団体、事業者、行政など互いに連携し、協力し合い、それぞれが持っている知恵や力を十分に生かした「みんなでつくる」まちづくりに取り組むことを基本理念としています。

そして2022年度、常滑青年会議所創立60周年に改正した、長期ビジョン、常滑JC充愛ビジョンでは、市民と共に愛する常滑のより良い未来を想像し...感銘と衝撃を与える運動を発信するとし、市民と常滑青年会議所が寄り添う形でまちづくりを行う事としました。

まずは、私たち自身が常滑の魅力を深く理解し、地域の課題を捉え、変革をもたらす為の、リーダー育成を行い、この常滑にある資源を時代に沿った形で活かすことが出来る人財へと成長しましょう。

自らが率先して行動することで市民を巻き込み、社会を動かそう。

未来のまちの為に自らが成長し、影響力をもった人財となり、地域に根ざした活動を展開することで信頼や共感の輪を広げ、運動を発信していきましょう。

#### 【組織の在り方】

組織が発展していく為には、役割を与えるだけでは成長しません。

まずは、メンバー同士の共有の場など、密にコミュニケーションをとれる環境を構築する必要があります。何をやっても大丈夫と、気兼ねなく自分の考えを発想し、発言できる空気をつくることで、行動を起こしやすくします。

それは、自分はここに居てもいいのだと言う居場所ともなります。やればできるという勇気を与え合うことで、メンバー同士の連携が活性化し、心理的安全性が高い組織として運営していくことができ、メンバーを信頼できる環境へと変化することで組織への愛着が沸いてくるでしょう。メンバーの居場所として、心理的安全性を基盤とした組織を作っていきます。

また、本年度は5年に一度の知多5JC連絡協議会の事務局を務めます。

知多半島5LOMとの絆を深めると共に、青年会議所活動に邁進していく為の土台として、知多5JC連絡協議会を支えて参ります。

#### 【結びに】

私は家業が常滑焼の製造を行っています。急須職人としては七代目となり、その祖は常滑焼急須の原型を中国から受け継いだ1人とされています。そんな伝統を受け継ぐ家に生まれた私は、父からは伝統ある家柄とも知らされず、将来は好きなことをやれと言われていま

した。その裏には、「本当に大切なことは自分で決めること」の大切さを知ってほしいと、言う想いがあったからだと思います。その自分自身で決めることの連続性の先には、自分で決めたことは、夢に向かうこととなり、そして決めたことには必ず、良し悪しが結果として見えてくる。そしてその先には夢を叶えられる道があるからだと考えます。

常滑焼の素晴らしさに気づき、この道に入った私は、全国へ世界へと、常滑焼の素晴らしさを伝える活動の中で、焼物を通して「誰よりもこのまちを愛し発信している」と自負していました。そんな中、常滑に住む若者がまちの為に活動する会があると知り、誘っていただき、2020年度に青年会議所に入会させていただきました。

しかし、コロナ元年となるその年の青年会議所活動は通常とは異なるものとなり、活動の殆どがストップしてしまいました。これまで60年続けてきた連続性は途切れてしまうこととなりました。

入会間もない私達にとってその影響は本当に大きく、「分からないことしかない。でもやることはある。」そんな中で、とにかく、がむしゃらに取り組んできました。

やってみては違いを聞き、対応する。試行錯誤し、進むことでしか何も見えてこない状況。ただ役職は毎年、重いものを頂けました。そんな中で、全力でもがいてきました。

青年会議所は幅広く深いもので、全てを把握することはできていません。ただ人生を変えた体験をしているメンバー、諸先輩方が沢山います。

この青年会議所のシステムが素晴らしいからだと思います。単年度で変わる役職は、出来るメンバーがその役をやるのではなく、機会を与えられたメンバーがそれをどの様にやるかを決め、真剣に取り組みます。

そんな青年会議所の特徴に感銘を受け、私は、この青年会議所に全力で力を注ぐ価値があると感じ、機会を掴むと決めました。

やると決め、発言したことは必ずやってきた私は、そして今年も理事長と言う大役をいただきました。この機会を全力で全うし、まちに影響を与えるリーダーシップを発揮することをここに決め、宣言致します。

一年間どうぞ、よろしく願い致します。